

令和4年度 第1回 学校運営協議会まとめ

大阪府立泉北高等支援学校

- 【1】 実施日時 令和4年7月15日（金）午後3時30分～午後5時
- 【2】 実施場所 本校応接室
- 【3】 出席委員 原田 哲次氏（社団法人 大阪障がい者自立支援協会
大阪ワークセンター所長） 協議会会長
早川 泰史氏（堺市相談支援センター事務局長）
井上 直子氏（堺市子ども相談所参事）
樋上 一真氏（堺市障害者就業・生活支援センター所長）
徳 和則氏（堺市立上神谷支援学校校長）
小山 恭子氏（大阪府立泉北高等支援学校 PTA 会長）

【4】 内 容

① 開会(教頭)

配布資料を確認

② 校長挨拶

③ 委員自己紹介

④ 協議会会長の選出

⑤ 協議

(1) 「令和4年度学校経営計画」について

校長より、学校要覧・学校教育計画を示しながら本校の概要を説明。

中期的目標について

- 1 生活自立コース、社会自立コース、就労支援コースの教育課程等の充実を図る。
 - (1) カリキュラムマネジメントをしながら、教育課程を評価し、改善のサイクルを意識して、令和5年度からの教育課程について議論している。
 - (2) 従来の「作業」を「職業」に改称。発達段階に応じたキャリア教育を行う。
 - (3) 個別の教育支援計画、個別の指導計画は3年前から様式を見直し、適切なアセスメントと目標設定を行う。

2 支援教育力の向上

- (1) 思春期の心理の理解を引き続き進めていく。
- (2) 支援学校に期待されるセンター的機能、専門性を外部に生かす。それをフィードバックすることで支援力を向上させる。
- (3) ICT、1人1台端末に対応できるよう、活用力の向上をめざす。働き方改革、教材のデータ化、ライブラリ化、OJTで専門性の伝達をしていく。

3 安心で安全な学校環境づくり

- (1) コロナ対応、思春期の問題、触法行為など。こころとからだをつなぐりの3側面から取り組んでいく。
- (2) PTAと連携しながら計画的に防災備蓄品の整備を行っていく。
- (3) 学校行事がアフターコロナの大きなトピックである。支援学校の豊かな文化を継承し工夫しながらより充実したものにしていく。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

先生方の多忙感が支援のクオリティを左右する。業務のシステム化を進める。

本年度の取組内容及び評価指標について

1 生活自立コース・社会自立コース・就労支援コースの教育課程等の充実を図る。

- (1) ①カリキュラムマネジメントを進めるとともに、アクティブラーニング、対話的主体的な深い学びが求められる。難しいところはあるが、学び方を考えていく必要がある。主体的な学びを引き出す授業が求められている。教科会議を教科研究部会とする。
②研究授業、公開授業を進める。授業を学びあう機会を増やす。PDCAサイクルを作っていく。
- (2) ①3コースともキャリア教育の観点からシラバスを整理し、授業改善をすすめる。各分野において職業科としての共通の目標設定や取り組み内容の決定に取り組む。
②担任の進路指導のノウハウやスキルアップについて進路指導部を中心に研修しながら強化していく。
- (3) ①自立活動の実践について、高等学校から転勤してきた先生方の専門性の向上をめざす。研修支援部を中心に実践報告会を行う。

②個別の教育支援計画を中心にした、校種間連携を進める。

2 支援教育力の向上

(1) ①専門家のコンサルテーションとともに、環境保健部を中心に教育相談会議を開催する。専門家との連携、情報共有を通して、日々の事案の共通理解と支援体制を作っていく。大阪大学の野坂先生との事例研究会を継続する。

②性に関する指導委員会を中心に実践をライブラリー化する。3年間の指導計画を作成する。

(2) ①支援学校と連携して、小・中学校への支援については、コーディネーター、リーディングスタッフの定期的な会議を持つ。この会議を基軸に校内支援の充実も図っていく。

②進路指導の充実のため、関係機関との連携による教員研修を実施する。

(3) ①多くの教師がICTを活用しており、その実践を共有していく。年度末にモデルとなる授業案の提示をする。

②教材のライブラリ化、75%以上をめざす。

3 生徒が安心して安全に学ぶことができる学校の環境づくり

(1) ①体力づくりの効果検証の指標を整理する。自立活動に個別カウンセリングを組み込む。気持ちを言語化して伝える支援を中心に取り組む。

②人権教育については、HRを活用し、系統立てた指導をしていく。教員の人権研修を実施する。サービスも含め、綱紀保持を徹底する。

(2) ①防犯研修を実施する。関係機関と連携しながら進める。

②福祉避難所としての課題の洗い出し、防災計画の見直しを進める。

(3) ①生徒の活躍の場を作る。

②いじめ対応については令和3年度の保護者アンケートでは64.8%であった。HR等の時間を使って情報を発信して、安心してもらえるようにするなど、みえる化していく。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

(1) ①業務分担の明確化を進める。今年度より2人の担任と2・3名のクラス付きの運営体制とした。分掌部長、学年主任をクラス付きとし

ている。課題も見えているが、意欲的に取り組めるよう適材適所に人材を配置する。

②校務分掌組織のマイナーチェンジを検証し、業務の整理、再分配を行う。

- 意見
- ・中期目標を具体にした重点目標に視点をおいて、評価指標が適切であるか、文言の説明など質問をお願いしたい。
 - ・教育にかけている時間が昔と違う。評価目標を90%にあげていくのはかなりしんどい数値なのではないか。かかげるのは必要だが、教員への負担が増加するのではないか。目標値は85%がめやすではないか。
→数字の読み方が大切と考える。あと10%の課題は何なのか。実質は100%をめざしたい。シビアな数字ではあるが、分析していくことが大切。数字が物語っている。めざすべき指標を掲げている。数値化することが求められている。
 - ・肯定の部分をホームページなどに掲げていくのではなく、マイナスのところをホームページに掲げていくことも一つではないか。否定的なものも載せていく。教職員の中でどのようにしていくのかと検討されていくのがよいのではないか。評価となるとやむを得ないという気はするが、90%はかなり厳しい気がする。もう一度考えていただいてもよいのではないか。
 - ・90%でも、80%でもマイナスをどのようにプラスにするのか、どこが、なぜ評価されていないのかを我々委員が知ることができたら、提案ができると考える。
 - ・100%がよいのは理解できるが、教員が見たらプレッシャーに感じるのでは否めない。
 - ・ICT教育について、1人1台端末を進めていくにあたって、授業の中で使っているところもあれば、使っていないところもあるのか。
 - ・どのような活用をしているのか。
→調べ学習もあるが、学びのツールとして活用している。学びを進めていく工夫をしていかなければならない。
 - ・画面共有などもしているのか。
→動画の撮影も含めて、様々な使い方をしている。
 - ・本校でもipadを使っている。堺市では昨年に導入された。支援学校では、持ち帰りしての活用ができていない。ipadに触らせることは、生徒たちにできている。教員によっては差異がある。生徒のほうが活用をどんどんしている。情報共有をしあって、連携したい。

→スキルを的確に把握して、生徒の達成度をあげていく。目標、課題設定、管理、活用方法など並行して行っていく。

- ・ICTでなければできない教育内容を知的な遅れのある生徒の個々の特性もふまえつつ、ツールの開発もしていただいて、他校にも広げていく取り組みを期待している。
- ・堺市障害者就業・生活支援センターでは、コロナ禍で体験先の確保が難しい。就労経験のない生徒がほとんどであると思うが、仕事への興味関心など、生徒のそのあたりの状況についてはどうか。

→新しい実習先の開拓先については、数が足りないということはない。企業、福祉事業所も増えている。ニーズに応じた数を確保できている。課題は、どんな仕事があるのか、授業と関連づいているのか、イメージをふくらませていくことが大切。令和5年度からは、職業科で座学を中心にビジネスマナーも含めて1コマ確保していく。イメージ作りにつなげる。

- ・見学だけでもお願いできるところはある。体験はグレー。コロナ禍では難しい。見学なら、受けていただけるところもある。

→授業に見学を入れていくのもよいと考えている。

- ・就労継続支援B型の進路先が多い。就労継続支援A型が少ない。B型からA型に進んでいく。A型で最低賃金も確保して生活できるように。責任をもって働いていける意識を醸成していく。なぜ、A型に変わることができたのかを探ることで、学校での指導内容が変わってくるのではないか。

→ひと昔前は離職率が高く、問題になったことがあった。近年のニーズとして、ワンクッションおいて、将来的に就労もという方が多い。失敗してもよい、一生涯キャリア発達にチャレンジしながら、周囲が支えていく。自信をつけてあげる。チャレンジしてみようという気持ちを育てていくことが求められている。

- ・3年度は24名がB型、A型からだけではなく、B型からの就職支援を事業所にさせていただく。伸ばしていただく。支援員さんたちも、先生方のノウハウを知りたがっている。
- ・卒業生の系統的な追跡調査はしているのか。

→個々には把握している。

- ・結果を検証して教育課程に入れていく、データを示していただきたい。
- ・コロナの感染者が増加してきた状況で、児童養護施設の生徒さんもおられる。実際には会えない状況で、継続すると、親子関係によくない

こともあり、通信を活用している。学校でも、家におられる生徒さんに、ICTを活用して少しでも、外へ向かう糸口にできないか。

→学びの保障が求められている。

- ・3(1)①生徒が「主体的に自分の気持ちを理解する、言葉にする、伝える」という項目は求めるところが高い。自分のことがわからない、表現できない生徒さんが多い。自分の気持ちに気づくことから進めていってはどうか。表情カードと実際の行動とは全く違う生徒さんもいる。「なんでも言ってね。」ではすまない。どう引き出すか、どう拾うか、根本的なところではある。
- ・授業で、木工・縫製・園芸・窯業などに取り組んでいるが、堺市内の事業所でこれらをやっているところが少ない。窯業をやっているけど意味があるのかなと感じる。増えていくといいとは思いますが、なかなか難しい。
- ・やっておられるところはあるが、少ないのは事実。そういう場所が増えて、生活につながるとよいのだが。
- ・福祉避難所について、堺市は今まで具体的に動いていないと思うが、8月から本校でもようやく動いていく。まだゼロベースではあるが、情報共有をしたい。
- ・今の社会情勢をみると、福祉避難所による訓練が必要になっている。強度行動障がい、自閉症などの方が過ごせる具体的な案や要望を声にして市にあげていくのは大切。また、支援者がどれだけ確保できるかを考えておかねばならない。ボトムアップでやっていく。

(2) 教科書選定について

次年度の教科書選定について教頭より報告。

(3) その他

意見箱、校長Dメールには意見はなしと教頭より報告。

会長まとめ

協議の中で、資料があればというものがあつたので、ご検討いただきたい。重要なところが協議にあがつた。第2回目は取り組みの進捗や新たに協議会で検討すべき内容など、ご報告いただきたい。

⑥校長より謝辞

⑦次回日程について 11月を予定